

原泉地区活性化計画 改善計画書

平成 26 年 7 月作成

都道府県名	計画主体名	地区名	計画期間	実施期間
静岡県	静岡県 掛川市	原泉地区	平成 20～22 年度	平成 20 年度
事業メニュー名		事業内容及び事業量		事業実施主体
農林水産物 処理加工施設		荒茶加工施設の整備 120K-2.5 ライン (蒸機 2 台・粗揉機 2 台・ 中揉機 1 台・荒茶総合調整機一式)		農事組合法人 原泉茶業組合

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値 A (kg)	実績値 B (kg)	達成率 (%) B/A	備考
地域産物の販売量の増加 (荒茶)	4.58%	△34.33%	△749.56%	平成 23～25 年度 販売量の合計

2 目標が達成されなかった要因

<p>ここ数年凍霜害や低温が続いたことにより、一番茶の生育障害が発生したことが大きな要因の一つといえる。また、お茶の生産・販売を取り巻く環境にも変化が出ており、品質を重視するために、みる芽(若く柔らかい芽)摘採を実施していることが、単位面積当たりの生葉収量の減少を招く要因にもなっている。</p> <p>また、全県的な傾向ではあるが、お茶生産に取り組む会員の高齢化が一層進み、お茶生産から撤退する会員も増加傾向にあり、生産量の減少はもとより、会員の協力体制の継続維持が困難であることも、マイナス要因の一つとなっていると思われる。</p> <p>しかし、25 年度の荒茶販売量は単年度での目標販売量 (51.662kg) の 7 割を達成しており、こうした年々の増加傾向を踏まえると、計画の目標達成に一段と近づいていると思われる。</p>
--

3 目標達成に向けた方策

目標達成年度	平成 28 年度
事業の推進体制	事業実施主体 (農事法人組合 原泉茶業組合) を中心とし、県・市・掛川市農協による支援
具体的取組政策	<ul style="list-style-type: none"> 天候による収量変化に対応するため、茶園管理技術の向上に努める。 荒茶生産量の確保と適期摘採による品質の向上に努める。 耕作放棄の恐れのある茶園を的確に把握し、原泉茶業組合として計画的な茶園管理を図るとともに、茶園管理面積の拡大にも努める。 引き続き地区外からの買葉を継続することにより数量増加を図る。

4 改善計画に対する第三者の意見

(コメント)

茶園管理技術の更なる向上と適切な茶園管理の実践、更には組織強化のための新たな担い手の育成等に努めるとともに、組合としての茶園管理面積の拡大などの取り組みにより生葉生産量を確保することで荒茶販売量の増加を図られたい。

(掛川市農業委員会)